

吉田城 御城印

文字
デザイン書道家 鈴木 愛氏



第1弾 池田輝政 2019年8月1日から

池田輝政の家紋「丸に揚羽蝶（あげはちょう）」を使用。

池田輝政は城主時代に吉田城を大改修し、15万2千石を領した。

文字はどっしりと重厚なお城のイメージを表している。



第2弾 酒井忠次 2020年8月1日から

酒井忠次の家紋「丸に酢漿草(かたばみ)」を使用。

酒井忠次はかつて吉田城を整備し、新たにお堀を造ったと言われる。

「吉田城」の文字で少しでも元気が届けられるように願いを込めて、勢いや躍動を感じる文字に仕上げた。



第3弾 大河内松平 2021年3月9日から

大河内松平の家紋「三蝶円内十六葉菊(さんちょうえんないじゅうろくはきく)」を使用。

大河内松平は、1712年から100年間以上を勤めた吉田城最後の城主。



第4弾 牧野 2022年1月11日から

牧野家の家紋「丸に三つ柏(がしわ)」を使用。

初代城主の牧野古白は、吉田城の前身である今橋城を築いた。

追い風に乗って旗が勢い良くはためく姿やグングン突き進む昇り龍を表現し、躍動を感じる文字に仕上げた。



第5弾 深溝松平 2023年4月1日から

深溝松平家の家紋「重ね扇(おうぎ)」を使用。

吉田大橋の架け替えや本丸御殿の完成をさせた実績や、連歌に優れ茶を嗜むといった風雅な人であったことから、どっしりとした書体に遊び心も取り入れた。台の上に立ち扇子を持って、三三七拍子で鼓舞する人の姿が「吉」の文字に現れた。



第6弾 小笠原 2024年3月4日から

小笠原家の家紋「三階菱」を使用。

約52年間4代にわたり吉田城主を務め、幕府の要職にも就いていた小笠原家。向山大池を造成し吉田城の総堀へ水を流入し防備をかため、下水道や農業用水、城下町の整備などを行った。また、小笠原忠知は山田宗徧を召し抱え、この地域の茶道普及の基礎を固めました。

吉田藩の発展期を思わせる豊かで勢いのあるダイナミックな文字と風雅を連想させる雅な書体としてふくよかに丸みを帯びた線を取り入れています。